

私は近代ドイツのアソシエーション、協会組織の生成と展開過程を研究しており、その観点から日本を含む現代の余暇社会のありようについて関心をよせています。たとえば「新しい公共」の受け皿として、地域における自発的な文化・スポーツ団体の活動が目立っていますが、こうした評価は正しいのかどうか、団体の性格、機能を丁寧に分析していく必要があります。

私は料理を作ることが好きで、完成された料理のイメージを頭の中に描きながら必要な素材を集めて独創的な味付けをしてみます。自分では結構いけると思っています。実は、このプロセスは論文の執筆をはじめとする研究の過程とよく似ていると思っています。

1. 専門演習の目標

このゼミでは余暇社会の意味と成り立ちについて、歴史的、社会的そして現代的な視点から考察を試みます。テーマパーク、祭り、各種スポーツイベントなど、総じて祝祭空間を彩る民衆娯楽・遊びの世界を探究していきます。祝祭空間には日々の生活の中で働き、あるいは学んでいる人々の独特な価値観（思想、行為様式）が現われるがゆえに、そこを切り口にして社会そのもののありようを問いなおすきっかけをつかむこともできます。

2. 専門演習で扱う課題と内容

このゼミで発表された論文から以下のような研究テーマを挙げることができます。

- ① テーマパークを調査して、その現代的な特徴や課題などを浮き彫りにする
- ② 都市や農山魚村で長年にわたって継承されてきた祭りの性格や人々が祭りに込めてきた意味の変遷を調べてみる
- ③ 地域の文化・スポーツ施設の実態について、施設を運営している側と利用している側との価値観のずれなどを追究する
- ④ 若者のレジャーのありよう（サブカルチャー）について、消費社会の文脈から文化・娯楽環境の問題を析出してみる
- ⑤ サマータイムの導入など日本の余暇の今後について政策提言する
- ⑥ ニューカマーたるブラジル人との共生を目指した余暇を通じたコミュニティのありようを考察する

上記のテーマはどれも私たちに社会科学的なものの見方、分析の方法を要請します。

3. 授業の進め方・内容

このゼミでは余暇社会を社会科学的に探究していきますが、ゼミ生は文字化された書物と現実（世界）という書物を読める力量を高めながら、それを間違いなく進路就職活動に活かしていきます。

- ① 3回生前期では、実践的な課題を探究するうえで必要となる知を吸収していきます。学問とは「まなび」「とう」ことですから、まずは「まなび」＝「まねび」＝「まねる」というわけです。
- ② 3回生後期では、前期からあたまてきた、それぞれのテーマを確定して研究をスタートさせます。何

が課題かを見出すこと自体が研究にとって最も大切な事柄の一つだと私は考えています。

- ③ 4回生前期はゼミ生の進路就職活動の支援にゼミの総力を傾注します。ゼミ生の経験交流や情報交換などをフル動員して、すべてのゼミ生の進路就職決定を目指します。
- ④ 4回生後期は、卒業研究作成のための発表、論文指導などを行っていきます。

ところで、このゼミは余暇を論じるゼミですから楽しいゼミにしていきたいものです。コンパ、ゼミ合宿、ゼミ旅行などの企画も大切にします。

4. 必要とする知識

大学の正課授業や課外活動などで1年半にわたって学び、取り組んできた皆さんの知識や経験はすべて役に立ちます。広い意味での知は様々な場面で鍛えられながら、少しずつ、しかし確実に身につけていくのですから。

5. 関連する分野・科目・知識

労働と余暇の関係、コミュニティの再生、スポーツメディアの功罪、豊かな高齢化社会の内実、余暇教育の具体化など、余暇を真面目に探究してみようと考えている学生ならどの専攻生でも価値あるテーマを見出すことができます。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

その都度、具体的に紹介します。

7. 独自に付加する選考方法

特にありません。ゼミを見学したい場合は、連絡していただければ対応します。

8. 受講生に望むこと

余暇は、私たちにとって非常に身近な存在だけに、それを学問の対象に置き換えてみることは意外と難しいものです。しかし、一人では解決できない問題をゼミの仲間とともに考えていくと、知識が体中にしみっていくような、何ともしびれる体験をするものです。これこそ成長の証です。それから、余暇のゼミですから「自由時間」の中身も豊かにしたいですね。このゼミが生涯の友人を作る場となることを期待しています。